



EXPO2025 大阪・関西万博 虹色ダイバーシティの取組 報告書



NIJIIRO DIVERSITY

認定NPO法人 虹色ダイバーシティ



LGBTQ+に関して、日本は先進国で最低レベルの法整備しかない国です。

そこで世界から人を集める万博が開催される、しかも私たちの地元の大阪で、テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」だ、と聞いた時に、私は不安を覚えました。

LGBTQ+の人たちが万博で働く、万博を観に行く、その際に人権侵害が起きないとはとても言えません。地元の支援団体として何ができるのか、私たちは一生懸命考え、働きかけ、実践してきました。

結果、決して完璧だったとは思いませんが、多くの学びを得ることができました。 **小規模のNPOでも、日頃の地域でのつながりを通じて、様々な参加手段がある**、ということを示せたことはスタッフみんなの頑張りとして、胸を張りたいと思います。

万博の運営主体は、期間が終われば解体されてしまいます。しかし、**私たちの学びを、是非、今後の国際イベント、大規模イベントに活かして欲しい**と願っています。

認定NPO法人 虹色ダイバーシティ
理事長 村木 真紀

目次

①大阪・関西万博 開幕前の取り組み

②大阪・関西万博 開幕中の取り組み

③改善点・要望

④レガシーに繋げる

⑤万博関連メディア掲載



①大阪・関西万博 開幕前の取り組み (公益社団法人2025年日本国際博覧会協会様)

持続可能性に配慮した調達コード

(2022年6月「第1版」、2023年7月「第2版」、2024年5月「第3版」)

「4.5 雇用及び職業における差別の禁止」

サプライヤー等は、調達物品等の製造・流通等に従事する労働者について、人種、国籍、宗教、性別、性的指向・性自認、障がいの有無、社会的身分等による雇用や賃金、労働時間その他労働条件の面でのいかなる差別もしてはならない。」

公益社団法人2025年日本国際博覧会 人権方針の策定(2024年4月)

- ・「ビジネスと人権」を含む、いくつかのグローバル基準に則り博覧会事業を進めていくことが定められている
- ・「人権デュー・ディリジェンス」の実施

人権に関する通報受付窓口の設置(2025年2月)

個人情報を伏せての匿名および多言語（日本語を含む9言語）での通報が可能

①大阪・関西万博 開幕前の取り組み (認定NPO法人虹色ダイバーシティ)

人権侵害の予防・リスク軽減



(1) 博覧会協会職員向け研修(2024年8月)

日本国際博覧会協会 職員向けe-ラーニング「人権(LGBTQ)の取組に関する職員研修」の実施

<内容：基礎編・応用編 対象者：約700名>

(2) 博覧会運営スタッフ向け研修(2025年3月)

パビリオン運営スタッフ向け「人権(LGBTQ)に関する博覧会運営スタッフ向けeラーニング」の実施

<内容：基礎編・応用編 対象者：552名>

(3) ゲストサービスアテンダント向け研修 (2024年12月～2025年2月)

万博会場内の案内所、迷子・忘れ物対応、会場巡回等を行うゲストサービスアテンダント向けLGBTQ研修の実施

<対象：コアクルーおよびサポートクルー 対象者：約1,000名>

(4) 「人権ワーキング」有識者(2024年6月～2026年3月)

「持続可能性委員会 人権ワーキンググループ」の委員に虹色ダイバーシティ理事の有田が就任

①大阪・関西万博 開幕前の取り組み (認定NPO法人虹色ダイバーシティ)

人権侵害の予防・リスク軽減

公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会
事務総長 石毛 博行 殿

2024年10月8日
特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ

(5) 要望書の提出(2024年10月)

内閣官房 国際博覧会推進本部および日本国際博覧会協会に向けた
「大阪・関西万博における LGBTQ に関する対応を求める要望書」の提出

(6) 他団体との意見交換(2024年10月)

「新設Cチーム企画」との意見交換(2024年10月)

(7) 取組方針の策定(2024年12月)

人権デューディリジェンスのプロセスに基づく、
弊団体における「2025年大阪・関西万博に関する取り組み方針」を策定

大阪・関西万博における LGBTQ に関する対応を求める要望書

謹啓 時下益々ご盛栄のこととお喜び申し上げます。
弊団体は、SOGI (性的指向、性自認) による格差のない社会をつくり、次世代に繋ぐことをミッションに掲げる大阪の NPO 団体です。LGBTQ 等の性的マイノリティとその家族、アライの尊厳と権利を守り、誰ひとり取り残さない社会の実現を目指しています。

地元大阪で開催される 2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の成功に向け、公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会が定める「人権方針」を支持し、協力してまいります。私たちは、万博での人権に関する取り組みが、世界における人権擁護の重要なプラットフォームとなり得ると信じています。万博に参加する来場者や関係者の職員・スタッフには LGBTQ の当事者も含まれます。また、万博参加国や地域の中には LGBTQ であることを犯罪とみなし、迫害される可能性のある国や地域が含まれていることも事実です。

私たちは、大阪・関西万博に関わるすべての人々の人権が尊重され、いかなる人権侵害も発生しないことを強く願っています。そして、そのためには必要な行動を実行してまいります。

既に実施されている人権に関する取り組みに加え、より包括的かつ具体的なご提案をさせていただきたく、以下の内容につきまして是非ご一考いただければ幸いです。

謹白

記

分類	内容	要望
会期前	人権方針	人権方針に記載された内容を、該当するすべての関係者に改めて周知・徹底をしていただきたい。
	調達コード	サプライヤー等の関係者に、調達コードの順守について改めて周知・徹底していただきたい。
	施設整備に関するユニバーサルデザインガイドライン	LGBTQ に関することも含まれており、該当するすべての関係者に改めて周知・徹底をしていただきたい。
	専用窓口の設置	人権に関する専用の相談および通報受付窓口を早急に設置していただきたい。

TEAM EXPO 2025プログラムへの参加



(1) TEAM EXPO 2025プログラム「共創チャレンジ」登録(2021年9月)

- ① 『常設LGBTQセンター「プライドセンター大阪」を中心とした「LGBTQも生きやすい街」大阪を実現したい！』
- ② 『LGBTQの子どもにも安全な場を。性の多様性を前提にしたすべての子ども・若者のためのセーフガーディング「レインボー・セーフガーディング指針・行動規範」』

(2) 第3回「TEAM EXPO 2025 MEETING」ブース出展・プレゼンテーション登壇(2023年12月)

ブース参加者：50名

イベントを通じた発信



(1) 「プライドクルーズ大阪2024」での情報発信(2024年5月)

- ①プライドクルーズ大阪2024のゲストに公式キャラクターのミヤクミヤクを招く（国内プライドイベントで初）
- ②大阪・関西万博PRブースの設置

イベント参加者：320名

(2) 「開幕250日前 EXPOミライみらいEXPO学園祭」にブース出展(2024年8月)

ブース参加者：72名

各国大使館との協力



(1) カナダパビリオン レセプション参加(2023年10月)

(2) 英国パビリオン レセプション参加(2024年3月)

(3) 各国大使および総領事との意見交換

プライドセンター大阪にて視察および意見交換を実施

- ・駐日ベルギー大使館 アントワントン・エヴラー大使
- ・大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館 メラニー・ザクシンガー総領事
- ・在大阪オランダ王国総領事館 マーク・カウパース総領事
- ・英国総領事館 マイケル・ブライス総領事 ほか

①大阪・関西万博 開幕前の取り組み (その他団体など)

組織委員会

- ・ロバート・キャンベル氏が理事（非常勤）として参画しメディアで発信

ユニフォームデザイン

- ・「ユニフォームデザイン審査委員会選考委員」に松中 権氏が就任（認定NPO法人グッド・エイジング・エールズ代表）

The screenshot shows the official website for the Osaka Expo 2025. At the top, there is a navigation bar with links for "公式ブログ" (Official Blog), "公式SNS" (Official SNS), "Goods & Shops", "グルメ" (Gourmet), "ウスピ・サコ" (USpi-Saco), "会場マップ" (Venue Map), "ユニバーサル情報" (Universal Information), and "アクセス" (Access). Below the navigation bar, there are three columns listing the members of the board of directors:

理事	小川 理子	パナソニック ホールディングス株式会社 執行役員 涉外担当・ソリューションパートナー担当（兼）テクニクスブランド事業 推進室長
ロバート キャンベル	早稲田大学 特命教授	公益社団法人経済同友会幹事（前副代表幹事） 株式会社価値総合研究所 代表取締役会長
栗原 美津枝	佐野 真由子	京都大学大学院教育学研究科 教授
澤田 拓子	寺田 千代乃	公益社団法人関西経済連合会 副会長 塩野義製薬株式会社 副会長
	野崎 治子	アート引越センター株式会社 名誉会長 国立大学法人京都大学 理事

②大阪・関西万博 開幕中の取り組み

イベント開催



<登壇者>

- ・公益社団法人Marriage for All Japan
共同代表 寺原 真希子氏
- ・オランダ王国大使館 ダン キム氏
- ・積水ハウス株式会社 木原 淳子氏
- ・認定NPO法人ReBit代表理事 薬師実芳氏
- ・一般社団法人ひと&コト 市氏

<司会>

- ・認定NPO法人虹色ダイバーシティ 理事
有田 伸也

(1) オランダパビリオンでのトークイベント開催(8月7日)

テーマウィーク「平和と人権ウィーク」開催期間中に、オランダパビリオンにてトークイベント
「婚姻の平等、その先の社会：オランダと共に考えるat万博」を共同開催

参加者：80名

関西にゆかりのある企業、LGBTQ支援団体（NPO法人QWRC、Tsunagaryオフィス合同会社、MASH大阪等）
および在阪団体（一般財団法人 アジア・太平洋人権情報センター、認定NPO法人Homedoor等）をご招待

イベント登壇



(2) ウーマンズパビリオンでのトークイベント登壇(8月9日)

ウーマンズパビリオン「WA」スペースでの関西大学主催トークイベント
「True Celebration 一成人式も、就職も、結婚も。“自分らしく”祝える未来へ」
に虹色ダイバーシティの長野が登壇
誰もが“その人らしく”人生を祝える社会のあり方を、多様な立場の実践者とともに考える
機会とした。
参加者：60名

<登壇者>

- ・株式会社クーゼス 田中 史緒里氏
- ・関西大学キャリアセンター 謹訪 壱子氏
- ・コカ・コーラボトラーズジャパン 西村 広二氏
- ・株式会社テイクアンドギブニーズ 金井 友香里氏
- ・認定NPO法人虹色ダイバーシティ 長野 友彦

<モレーター>

- ・関西大学関大アライ会 西脇 菜穂子氏

イベント開催



<登壇者>

- ・公益社団法人Marriage for All Japan
共同代表 寺原 真希子氏
- ・大阪大学全学教育推進機構 教授
金森 サヤ子氏
- ・認定NPO法人虹色ダイバーシティ 理事長
村木 真紀

(3) ウーマンズパビリオンでのトークイベント開催(9月18日)

ウーマンズパビリオン「WA」スペースでの大阪大学D&Iセンター×虹色ダイバーシティの協働トークイベント

「LGBTQを含む誰もが暮らしやすい未来社会とは?」を開催

大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を実社会でどう描き、

LGBTQも含む誰もが暮らしやすい未来社会をどう創るかについて、ゲストとともに考えていく機会とした。

参加者：80名

アドボカシー



国際人権副高等弁務官との意見交換(2025年5月)

国連人権高等弁務官事務所(OHCHR)のイベントに合わせて来日した、ナダ・アル・ナシフ国連人権副高等弁務官と関西のNGOの意見交換会に村木が参加

村木から日本政府に対して、以下の要望を提言

- ①独立した国内人権機関の設立
- ②LGBT理解増進法の実施状況の国際的な監視
- ③SOGIに関する統計の整備
- ④LGBTQ+支援団体への公的支援の促進

モニタリング（展示・企画等）

来場したスタッフや家族の体験を写真やテキストで共有して保存



(1) ウクライナパビリオン（コモンズC）

- ・国内でのプライドパレードの様子を動画で紹介

(2) カナダパビリオン

- ・トロントプライドパレードの様子をAR（拡張現実）で表示

(3) ウーマンズパビリオン

- ・西村 宏堂氏（僧侶、メイクアップアーティスト、LGBTQ活動家）が展示内で登場

モニタリング（プライド月間 2025年6月）



(1) 各パビリオンでのプライドフラッグおよびレインボーカラーの展示

- ・カナダ、オランダ、ドイツ、オーストラリア、EU 等（ドイツは期間中ずっと掲示）

(2) スタッフ向けイベント

- ・スペインパビリオンにて、スタッフ向け交流イベントの開催

(3) 情報発信

- ・大阪観光局ホームページ「Visit Gay Osaka」にて期間中の取り組みに関する英語での発信

<https://visitgayosaka.com/column/columns/expo-2025-pride.html>

モニタリング（会場内設備・情報発信）



(1) オールジェンダートイレの設置

- 会場内トイレの45か所のトイレのうち、4割(18か所・計108基)の設置
- Osaka Metro中央線 夢洲駅に6基設置

(2) デジタルサイネージでの発信

- 会場内デジタルサイネージで「人権デュー・ディリジェンス」および「通報受付窓口」の告知（多言語案内）
- プライド月間の周知

(3) 「平和と人権ウィーク」期間中のイベント

- ベルギーパビリオンでのクィアアーティストのパフォーマンス

イベント参加



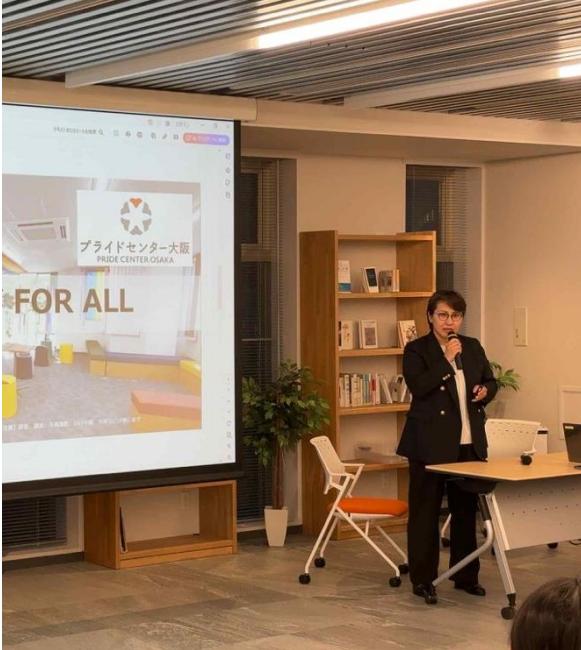
(1) オーストラリアパビリオン キャンベラのイベントに参加（7月1日）

オーストラリアパビリオンにて、首都キャンベラのシティプロモーションのイベントに村木が参加。オーストラリア首都特別地域首相のアンドリュー・バー氏から、キャンベラの魅力を高めたLGBTQ+施策、若者施策等について意見交換を実施

(2) 北欧パビリオン ジェンダー平等イベントに参加（9月1日）

北欧パビリオンにて、ジェンダー平等に関するイベントに村木が参加。LGBTQの権利に関する各パネルで言及され、平等と公正さを制度で担保しつつ、個人の選択を尊重する文化をつくることが、より幸福度の高い社会を実現する要素だと語られた

成果物への参加



(1) 大阪大学中之島センターで行われた「いのち会議」のイベントに参加（6月12日）
新公益連盟のメンバーとしてイベントに登壇し、プライドセンター大阪について紹介

(2) 「いのち宣言」に寄稿（10月11日）

LGBTQ+に関して唯一の提言 “家庭、学校、職場、地域などで「いない」ことにされている
LGBTQ+などの性的マイノリティやその周辺の人たちが、安心して息のできる場所を増やそう”
が採用

→ 今後も続く取り組みの指針に



↑寄稿内容
「いのち宣言_日本語版アクションプラン集」

救済へのアクセス

万博開催中におけるプライドセンター大阪の通常開館

- ・海外からの来館者増加を見越して、スタッフが英会話レッスンを毎週受講
- ・大阪・関西万博を訪れた方も多く来館された
- ・島根県から大阪に修学旅行に訪れた高校生が、万博訪問とともに、プライドセンター大阪での教育プログラムを受講



③改善点、要望

(1) 情報発信

LGBTQ+に関する展示やイベント、トイレ、相談・報告窓口の情報等について、公式ホームページでまとめたページがなく、来場前に当事者が必要な情報へアクセスできる状況とは言い難かった。

(2) 展示コンテンツ

LGBTQ+当事者のリアルな声や経験を反映した展示コンテンツは限定的で、かつ、見つけにくかった。また、各国・地域におけるLGBTQ+に関する取り組みや歴史はパビリオンの中のイベントで紹介されたが、一般来場者がLGBTQ+について学べる機会はほとんどなかった。

(3) スタッフ・ボランティアの対応

会場内において、スタッフやボランティアが来場者を外見上の性別に基づき「お姉さん」「お兄さん」などと呼びかけている場面が複数確認された。



④レガシーに繋げる

弊団体における大阪・関西万博への関わりは、人権デュー・ディリジェンス（人権DD）の枠組みに則った実践と検証を行うものであった。人権DDは、継続的に行うこと、未来へのレガシーに繋げることが必要である。

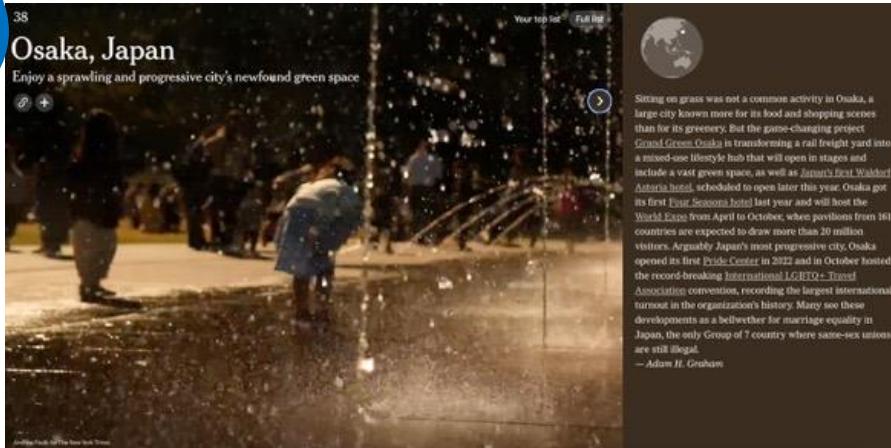
「人権侵害の予防・リスク軽減」の観点では、LGBTQを含む多様な人々が直面しうる差別や排除のリスクを事前に把握し、情報発信、施設整備、スタッフ・ボランティア研修等を通じて未然に防ぐ体制を、早期から構築していく必要がある。その際、自団体のみならず、行政、企業、教育機関、他の市民団体等と連携しながら取り組みを展開していくことが求められる。

「人権侵害のは是正・救済へのアクセス」の観点では、差別的言動や人権侵害が発生した際に、当事者が安心して相談・申告でき、適切な対応やは是正につながる窓口およびプロセスを整備する必要がある。今回の万博において設置された「人権通報受付窓口」については、その効果検証を行うとともに、自治体や地域レベルでも活用可能な相談・対応モデルとして共有し、定着させていくことが重要である。

これらを踏まえ、万博会場のみが「LGBTQフレンドリー」な空間となるのではなく、**街全体として受け止める仕組みを構築していくことこそが、レガシーの本質である**。そのためには、行政、地域コミュニティ、民間事業者、市民団体がより一層連携し、万博で培われた人権に関する基準や実践を、日常のまちづくりへと接続していくことが不可欠である。

本報告書をウェブサイトで公開するとともに、他のソーシャルセクターを巻き込んだ報告会を開催し、広く情報発信を行うことが重要である。あわせて、「2027年国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）」や「2030年リヤド国際博覧会」へと取組みを継承できるよう、働きかけを行っていく。

⑤万博関連メディア掲載記録



・毎日放送（2024年5月25日）

MBSニュース「LGBTなどの理解・支援を“船から”呼びかける「プライド・クルーズ」 同性婚を法制化したオランダなど各国の総領事も参加」

・読売テレビ（2024年5月25日、2025年1月5日）

読売テレビニュース「LGBTQの理解深めてほしい 支援意味する旗を掲げ、船で呼びかけ 認定NPO法人がイベント 大阪」

「関西情報ネットten.」

・朝日新聞（2024年5月25日、2024年9月10日）

「いのち輝く」遠い日本　LGBTQ団体代表「未来に種まく万博に」

・一般社団法人アジア・太平洋人権情報センター（ヒューライツ大阪）

「国際人権ひろば2025年11月号」

・関西大学

「～夢洲関大Days～」

・ニューヨーク・タイムズ “52 Places to Go in 2025”

大阪は「日本で最も先進的な都市」としてプライドセンター大阪を紹介



国際人権ひろば

HURIGHTS OSAKA Newsletter

一般財団法人 アジア・太平洋人権情報センター（ヒューライツ大阪）

2025.11 No. 184



5/17「虹の郷（みやこ）、大阪へようこそ！」をテーマに開催された「プライド・クルーズ大阪2025」（上）
8/7 大阪・関西万博オランダ（オランダ）で開催されたトークイベント「福島の平野、その先の社会：オランダと共に考えるat万博」（下）
(写真提供：認定NPO法人虹色ダイバーシティ)

特集

国連創設80年－国際人権基準の浸透に手間取る日本